

目次

目次
口絵
発行の辞
歴史を継承する事業
第一章 由緒
第二章 縁故の伝承・人物
第三章 神社の格式と変遷
第四章 祭祀と建造物
第五章 神職、総代と事務
第六章 神社の歴史
第七章 社殿建設(平成の大改築)
第八章 資料

発行の辞



鶴崎神社 宮司 太田浩司

発行の辞

当社は、貞和六年(1350・北朝)／正平五年(1350・南朝)に吉備津神社(岡山市北区吉備津)から吉備津彦命荒魂を勧請したのが創建とされている古社であり、享保十一年(1726)には神祇官領から神階正一位を賜り、明治四年には郷社に列格され、今日まで、早島、豊洲、帯江の氏神として氏子の人々に崇敬され、守られて参りました。

この度、明治二十八年に改築された社殿の老朽化により、改築を行う事となり、その事業の記念として、神社創建からの歴史を氏子の皆様に分かり易くお伝えするべく神社誌の作成を行う事と致しました。

資料の収集を始めたところ、当社の記録に昭和四十二年、当時総代であった井谷一二氏が、時代とともに当社の縁起が散逸してしまう事を憂いて、神社誌の編纂を提案していた事が残されていきました。

しかし、この提案は実現されず現在に至っていましたが、それから四十二年振りに井谷氏の思いを果たさなければとの思いも重なり、尚一



鶴崎神社 総代長 安原 昇

歴史を継承する事業

層奮起した次第でございます。この神社誌から、祖先が神を祀る事の尊さ、文化を伝える事の重要さを長い歴史の中で、導いて下さった事に感謝し、鶴崎神社とはどのような神社なのかを知る一助としていただければ幸甚に存じます。

当社の歴史は、今を遡ること約六五〇年前の南北朝時代の創建とされています。創建当時から多くの先人等により篤い崇敬を受け、神威の高揚がなされて参りましたが、特筆すべき事は、早島町塩津出身の安原伝兵衛と宮崎城主高島市正貞政が郷土のために、氏子と共に鶴崎神社の御本殿の改築に力を注いで下さり、享保四年の改築を経て今に残る雄壮且つ優美な文化的価値の高い御本殿を氏子のために残して下さったことです。

この御本殿は塩飽大工の作とされており、近郷希な規模を誇り、ご祭神の神威が尚一層輝くものとなっております。

享保十一年には神階正一位が賜与され、昭和十四年には県社昇格の請願が行われました。また、明治二十八年には、氏子の協力を得て拝殿を始め幣殿、神饌所、貴賓室、社務所等神社の社殿の殆どを改築する大改築が行われました。

しかし、既に社殿改築の大改築から百十数年が経過し、度重なる修理にもかかわらず社殿の傷みも激しさを増し、危険な状態に陥りましたので、総代会を開催し協議を重ねた結果、修理は不可能であり改築を行う事に決定致しました。

この決定を受け、早速「社殿建設委員会」を設置し、氏子の皆様方にお願致します、浄財を募り、皆様のご協力によりこの度立派に完成することができました。祭りとは、神に衣食住を奉る事であり、古く「祭り」の本義という事にもなります。

先人達が神を尊び、六五〇年に亘り変わる事無く「祭り」を奉仕し、この鶴崎神社を守り伝えて下さった意志を、この度の社殿建設事業に託し、今後神のご神威により繁栄するであろう早島、豊洲、帯江の次世代の氏子の皆様に神社の歴史の継承が行われた事は大きな喜びであります。

これも偏に氏子の皆様の神社に対するご信仰の現れと感謝申し上げます、ご挨拶と致します。